

学校評価に対する対応策

(1) 中間的な評価を実施し見直しを行ったこと

ア ICT機器の積極的活用

- ・ICT機器を積極的に導入し、オンライン（ZOOM や YouTube など）を活用し授業改善を図った。

イ 新たな地域連携事業への参加

- ・「聖地巡礼隊」に参加、足利市のロケ地マップを作成し市観光協会へ寄贈した。

ウ 情報モラル講演会のリモート実施（1年生）

- ・リモートでも出来ることの教員側の達成感や自信、生徒の注意喚起ができた。

エ 進路に関する情報の提供

- ・「進路情報」の受験報告の入力は、密を避けるため教員が入力したが、後の修正が少なく、良い方法であった。
- ・過去の受験報告書を会社ごと、大学・短大・専門学校別に分け利用しやすくした。
- ・進学・就職関係のビデオがとても古い物しかなかったため新しい物に買い換えた。

オ 校則について

- ・PTA役員と話し合いを持った。今後生徒会とも話し合いを持ち整理していく。

カ 預かったスマホの取扱について

- ・保険に加入したことにより安心感が生まれ、持ち運びについても、教員の指導により慎重になった。

キ 水曜日昼休みの校内放送実施

ク 学習成果発表会の実施をとおして

- ・新たにSDGsに着目し、研究に取り入れるなど環境問題をはじめとする様々な課題への意識を高めた。
- ・会場へ一同が集まることができなかったため、映像を活用した発表会として実施した。

ケ 「総合的な探求の時間」の取り組み

- ・定期的な打合せ、先進校視察等をとおして、来年度に向けた準備に取り組めた。
- ・先行実施した1年普通科では2回発表会を実施できた。

コ 臨時休校中・学校再開後の取り組み

- ・課題を郵送したり、動画配信を行ったりするなど工夫し、生徒もよく取り組んでいた。
- ・分散登校時の時間割を作成した。
- ・コロナ対策として、オンラインでの行事等の開催。
- ・始業式・終業式等を放送で実施した。

(2) 評価結果に基づく今後の改善方策等

ア 本を読む時間について

・図書委員会による「おすすめの本の紹介」や朝の読書を中心に、生徒へ働きかけていく。

イ 家庭学習時間について

・適度の宿題を課し、きちんと提出するという習慣ができるように指導していく。
・学習意欲や進路意識を高めていくためにも検定試験の受験は意味があるので、生徒、保護者の理解を得られるよう説明していく。

ウ 生徒指導の方針について

・生徒指導上や規準や進路指導上の規定など、決められたことであるにもかかわらず、受け取る側で恣意的に解釈する場合があるので、普段から丁寧な説明を心掛け、保護者からの意見等にも丁寧に粘り強く対応していく。生徒指導に対する理解を深めるための対話を実施し、保護者と信頼関係を築いていく。

エ 校則の改正、指導について

(コロナ対応について、換気をしてほしいという意見と寒いという意見に対して)

(部活動の登下校時の制服着用へついてのご意見に対して)

・その校則が作られた背景や現状にあったものなのか、十分に議論した上で行う。
・頭髪等、今一度学校全体で統一する。変更などは全教員で共有。指導した内容等も共有する口頭だけでなく、必ず文書化して、あるいはデータの状態でも、周知することは徹底する。

オ 学校からの情報提供について

・校内掲示を充実させるとともに、ＨＰの更新や一斉メール活用に努めるなど、積極的な情報発信に努める。